

(松本)

長野・松本城下町跡伊勢町

城下町整備まで遡るが、藩政時代を経て今日にまで伝えられてきた町割は、一七世紀前半の小笠原秀政の整備によるものと考えられている。

一 第一次調査

- 1 所在地 長野県松本市中央一丁目
 2 調査期間 一 一九九六年（平8）一二月～一九九七年一月、
 二 一九九七年八月～一〇月
 3 発掘機関 松本市教育委員会
 4 調査担当者 一 神田訓安・高桑俊雄・村田昇司
 二 竹内靖長・長橋重幸・村田昇司

- 5 遺跡の種類 城下町跡
 6 遺跡の年代 近世・近代
 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

伊勢町は、親町三町・枝

町一〇町からなる松本城下

町のうち、本町から西に分岐し旧野麦街道の起点となつた枝町である。市街地の再開発事業に伴うこれまでの発掘調査や文献上の記録から、町屋の形成は一六世紀後半の小笠原貞慶による

木簡は、第二検出面の土坑四（廃棄土坑）から六点、同面の遺物包含層から一点、計七点が出土した。土坑四は、南北六m東西六・九m深さ〇・六mを測る隅丸方形の大形廃棄土坑である。木簡のほか、覆土中からは陶磁器、木製品が数多く出土している。

二 第一次調査

伊勢町は、親町三町・枝町一〇町からなる松本城下町のうち、本町から西に分岐し旧野麦街道の起点となつた枝町である。市街地の再開発事業に伴うこれまでの発掘調査や文献上の記録から、町屋の形成は一六世紀後半の小笠原貞慶による

木簡は、形成初期にあたる第三検出面（一六世紀後半から一七世紀

前半まで)の土坑一九から一点、同面の土坑六から一点、第四検出

面(一六世紀後半)の廃棄土坑一から二点、同面の溝状遺構一から一点、計七点が他の木製品とともにまとまって出土した。土坑一

九は円形ないしは隅丸方形を呈すると考えられ、この遺構とともに直線状に連なる二基の土坑が近接する。いずれも内部に栗石状の礫が多量に見られ、建物の礫石跡の可能性がある。土坑六は焼土面で、周囲に炭・灰が散在していたものである。土坑一は礫が多量に含まれる径五〇cm内外の円形土坑で、建物に伴う可能性もある。溝状遺構一は幅〇・八m長さ六mで、東西に走るものである。

8 木簡の釈文・内容

一 第一次調査

土坑四(第一検出面)

(1) 「松本尋常高等小学校
○女子部 □つ長
・〔学 平民カ〕」

○ 弥 吉野山

98×23×7 011

〔器カ〕
〔箇□〕

(135)×(34)×5 081

(3) 「松本
桂山〔行カ〕」

85×40×1 011

(124)×26×1 081

85×20×1 011

〔皮カ〕

「□□
小□□」

・「□
□□□館」

・「□
□□」

第一検出面遺物包含層

(7) 「□□

(187)×34×4 081

(1)～(6)は、明治期の旧開智学校に関わるものと考えられ、(1)(2)はその記載内容から学校内で使用された木札類と推察される。(3)～(6)は荷札木簡などと考えられよう。なお、(6)の裏面三行目の文字は、「展」または「食」の可能性がある。

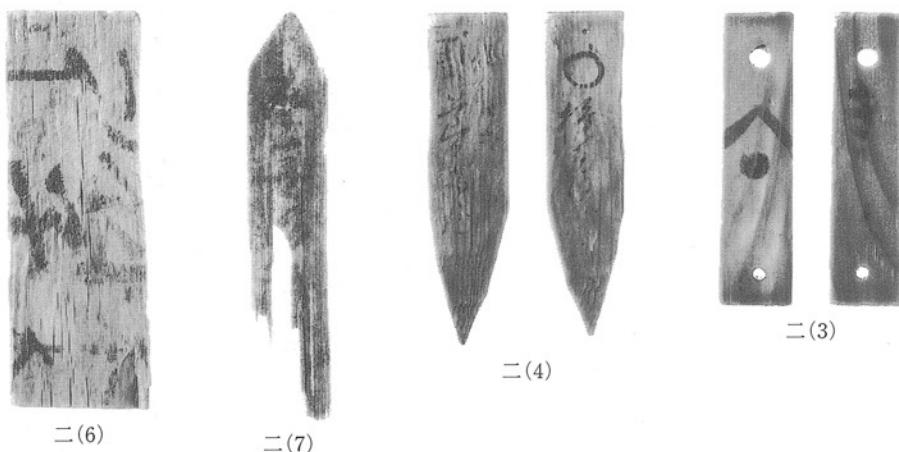
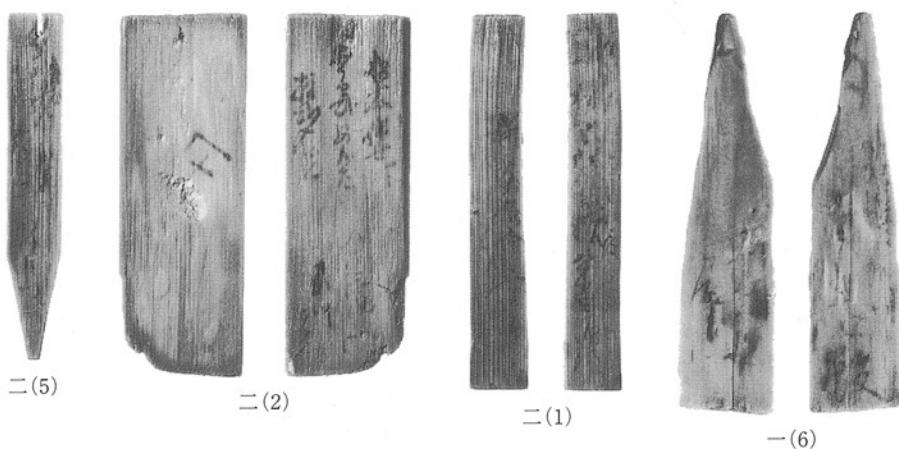
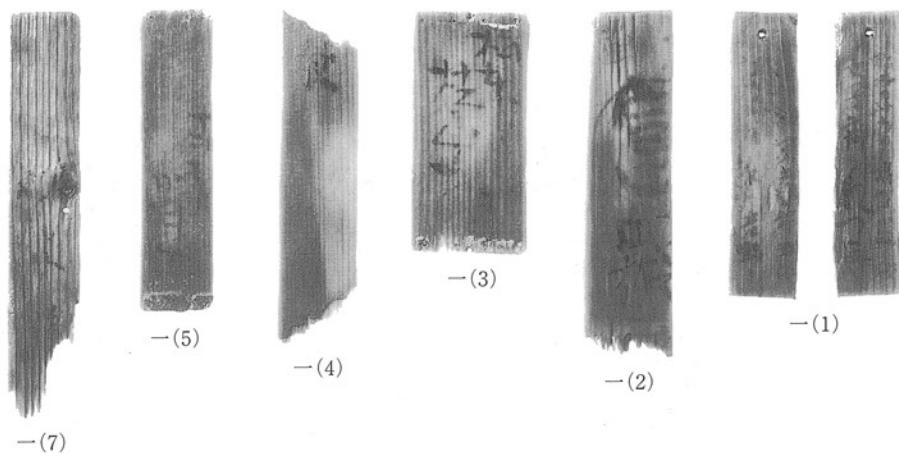
二 第六次調査

土坑二九(第三検出面)

(1) 「上松□□□様 渡
米田源次」

222×33×4 011

2006年出土の木簡



土坑六（第三検出面）

（2） 「松本伊せ_カ」

相かりひか
□□□
拾式メ_ぬ□□

三郎次
武州庄エ門」

・「」<×

196×69×8 011

9 関係文献

松本市教育委員会『松本城下町跡本町第三・四次、伊勢町第一四
・七次—平成九年度試掘調査報告書—』（松本市文化財調査報告
三三）（一九九八年）

（竹原 学）

（4）

・「○○權藏」

」

・「○_{九月六日}
西道中□□」

178×32×8 011

（5）

「○新□村_埴科_弥左_衛門
組頭六郎左_衛門
弥左_衛門」

174×28×3 051

（6）

「一□村_本
子_カ本」

（99）×288×10 081

（7） 溝状遺構一（第四検出面）
「南無阿_{弥陀}カ」

（215）×35×1 019

第一六次調査出土木簡は、松本城下町跡出土木簡でも古い段階に
位置付けられるものである。（1）～（4）は形態や記載内容から荷札木簡
と考えられる。（5）は人足に関わる札。（6）は建築部材や容器などの一
部であろうか。（7）は上端を尖らせる。内容からみて、笹塔婆の上部
と考えられる。